

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

よろしく願いいたします。

私、海洋高校の地元なものですから、朝、生徒が、普通の生徒よりは少し早く行っているようなんですよね。自転車に乗っていくわけですが、自転車がかわいそうなくらいひしめきながら走っています。ぜひそういう子供たちが、もう少し自転車をいじめるくらい体が大きくなって、強くなっていただきたいなというふうに思っております。

今後、先ほど市長も申しましたが、相撲だけではなくて糸魚川市の豊かな食や文化、そして、これからインバウンドが大変増えてきております。そういう人たちにも、ぜひ日本の相撲というものも海洋高校へ行けば見られるわけですので、そういう人たちにもPRしながら、糸魚川市の活性化、人口減対策に努めていっていただきたいというふうに思っております。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を11時10分といたします。

〈午前11時02分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔17番 保坂 悟君登壇〕

○17番（保坂 悟君）

おはようございます。

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、市長公約である（仮称）駅北子育て支援複合施設の建設見直しについて。

(1) 選挙公報の「本当に市民の声を聞いて進めたのか？」について。

① 駅北の復興計画、まちづくり戦略、（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画のどの部

分を指して言われているのか。

(2) 「久保田いくお公式サイト」の指摘項目と市民の声について。

- ① 「既存施設の利用」とは、どこを想定しているのか。
- ② 「本当に駅北がふさわしいのか」とあるが、どこならよいのか。
- ③ 「にぎわいの拠点施設」に対して「一貫した子育て支援になっているのか」とあるが、この問題提起の意図は何か。
- ④ 駅北における「にぎわいづくり」の対案はあるのか。
- ⑤ 建設見直しの場合の財源案やスケジュール案は考えているか。

(3) 屋内遊戯施設の認識について。

- ① 当市に屋内遊戯施設がないことをどのように受け止めているか。
- ② 運営費をかけても多くの家族連れに利用される屋内遊戯施設を造る考えはあるか。
- ③ 県内外の自治体、道の駅、ショッピングモール等が屋内遊戯施設に力を入れている理由を調査しているか。

2、市長公約である産後ケアと保育環境の充実について。

選挙公報に「一貫した子育て支援を」と市長は強調されていますが、具体的な取組について伺います。

(1) 産後ケアから保育環境の充実について。

- ① 1歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ② 3歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ③ 小学校入学前の幼児までの支援はどのようなものか。
- ④ 障害児や医療的ケア児の支援はどのようなものか。

(2) 市内の産後ケアの事業所への支援について。

市内では糸魚川総合病院とラ・マドレが産後ケア事業を行っているが、具体的にどのような事業者支援を検討されるのか。

(3) 市内の産前産後ケアの体制づくりについて。

産科医不足が叫ばれている中、糸魚川市として産科医ありきの想定で体制を進めるのか。それとも産科医が確保できなくても安心して子供を産み育てられる環境整備にシフトしていくのか。その方向性について、どのように考えているか。

3、市長公約である学校の再編、地域展開への移行、多様化への対応、施設の再構築についてと大学・専門学校等との連携、キャンパス誘致について。

(1) 教育移住の推進について。

- ① 近年、全国では自然環境や少人数制クラスによる先進的・特徴的な学校を売りにした取組がある。当市でも親子ワークショップ体験入学や陰山メソッドによる基礎学力の定着を図る取組がある。今後、幼稚園や保育園、小中学校、高校において、新しい取組を行うことが市長公約にある多様化の対応に含まれるが、具体的にどのようなことを検討されているのか。

(2) サテライトキャンパスの推進について。

- ① 海洋高校と近畿大学が連携してノドグロの養殖に挑戦をしております。水産業のスマー

ト化や働き方改革などに対応するため、海洋水産系大学の誘致をどのように考えているか。

- ② 地元企業が農業や林業に力を入れております。農林業系の大学の誘致について検討をしているか。
- ③ 糸魚川市は、世界ジオパークのまちであります。地質や鉱物、動植物の生態関連の大学の誘致について検討をしているか。

4、市長公約の縮充と新しい糸魚川づくりについて。

- (1) マリンドリーム能生のかにや横丁と鮮魚店の前の段差について。

混み合っているとき、段差を踏み外して、けがをすることがあると聞いております。紅白のペイントで対応しているが、段差をなくす考えはあるか。

- (2) 旧姫川病院の対応について。

テレビ番組やユーチューブ等では心霊スポットとして紹介されております。観光振興や安全面の観点から、マイナスイメージとなります。市長として取り組む考えはあるか。

- (3) 個人住宅用の防犯カメラの設置補助制度の創設について。

長野駅の殺傷事件で「リレー捜査」という言葉が話題となりました。市内でも様々な事件や事故が起こっているため、個人用防犯カメラの設置の推進を市長として取り組む考えはあるか。

- (4) 学校給食の無償化について。

- ① 来年度、全小学校で実施予定であるが、準備はできているのか。
- ② 全中学校での実施に向けて課題や問題点はあるか。
- ③ 小中学校給食の無償化に向けて、財源確保のめどは立っているのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

それでは、保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、これまで復興計画やまちづくり戦略など様々な場面において、市民の声を聞く中で進められてきたことは承知しておりますが、一方で、大規模な建物整備を心配する声も多く聞いたことから、そのような表現をしたものでございます。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、市内既存施設の利用を含めて再検討をすることが必要であると考えており、複数の候補地を確認しておりますが、現段階では、場所等は未定であります。

3つ目につきましては、産後のケアから乳幼児、障害児までを含めて連携を持たせることが重要であるとの考えから、そのように表現したものであります。

4つ目と5つ目につきましては、現在の国補助事業の継続を前提として、にぎわいの一助となるよう検討を進めたいと考えております。

3点目につきましては、まずは子育て世代からのニーズが多いこと、荒天時の遊び場だけでなく、夏の酷暑により屋外遊びが困難な日もあり、市民が市外に出向いている状況もある中で、屋内遊戯施設の必要性は感じております。

また、少子化だからこそ、子育ての孤立化を防ぎ、安心して子育てができる環境を整備するという視点も持ちながら、早急に既存施設の活用を含めて整備したいと考えております。

2番目の産後ケアは、子育てに対する支援の始まりであると捉えております。

1点目につきましては、妊娠支援給付金の給付をはじめ、産婦の身体的回復や心理的安定に向けた保健指導、子供への各種健診など行っております。

また、子育て支援センターや病児保育など安心できる子育て環境の整備のほか、医療的ケア児については、やまのい保育園での看護師配置や民営保育所等への職員の加配など、それぞれの発達段階や状況等に応じて、きめ細やかな支援が実施されていますが、それらの連携、継続性を意識する中で、さらに必要となる支援を検討し、一貫性が感じられる事業展開を図ってまいります。

2点目につきましては、それぞれの特性を生かし、事業所と情報共有を図りながら、今後の支援を検討してまいります。

3点目につきましては、医療環境がどのようなであっても、市内で、安心して子どもを産み育てることができるように、環境整備を進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、総合的な学習をより充実させ、主体性や協働性の育成、社会との関わりの中で自分の目標や生き方を考える力などを育成することで、それぞれの個性を生かし、その能力を伸ばすための多様な学びに対応し、移住等にも資するよう取り組んでまいります。

2点目につきましては、当市の特有の自然や地質、歴史文化は学生が研究するフィールドとして適していると考えております。

既に地質の分野では、新潟大学のサテライトミュージアムとして相互に活動しており、それ以外の分野では、現在、連携協定を締結している新潟食料農業大学などとサテライトキャンパスの設置に向けて、協議してまいります。

4番目の1点目につきましては、株式会社能生町観光物産センターが段差注意の看板設置や色分けするなど注意喚起をしているところではありますが、段差解消については、管理者と協議してまいります。

2点目につきましては、非常に悩ましい問題ではありますが、市は土地・建物の権利者ではないことから、現状では、市が主体となって取り組むことは、法的に困難な状況であります。

3点目につきましては、補助制度の創設等は今のところ考えておりませんが、関係機関と設置効果等について検証してまいります。

4点目につきましては、市の財政負担がどうなるかが一番の課題であると考えており、国の動向を注視してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

選挙公報の1番目の1番ですけれども、選挙公報の本当に市民の声を聞いて進めたのかという言葉、この選挙公報に書かれているんですけども、これを見た瞬間ですね、これまでの、何ていうのかな、質問項目にも書きましたけども、あらゆる会議体、団体への聞き取り、また、地域住民等への聞き取りをやってきた中で計画が進んできてるんですけども、市民の声を聞いて進めたのかって問われると、そこに参加されてる方だとか、どういう気持ちになるのかなと思ったときに、ここは、むしろそこまでしてここまで書いた理由として何か根拠があるかと思いますので、そういったところを改めて聞いておかないといけないかなと思いました。そうしないと、会議体で吸い上げた声が、何か全部うそみたいに聞こえてしまいますし、特にパブリックコメントまでして、過去にないぐらいのコメントが寄せられたわけですよ。それが本当の声でないというふうにしてしまうのは、ちょっと横暴かなと、横暴に思えるので、その辺の見解をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

私自身、いろんなパブリックコメントも、令和5年に公表されたものも読ませていただきました。さらに、いろんな会議体についての意見の部分についてもお聞きはしております。次いで、加えて言うのであれば、私自身が寺島区の区長として、区長会、連合区長会、能生、青海等の地域活性化協議会等に出向いた際のお声もお聞きしておりますので、一番、その直近といいますか、そういう声の集約が私の耳に届いていたということの中での表現というふうに捉えていただきたいというふうに思います。決して、今までの声を無視してるわけではなく、それに付随して、さらに声が上がっている部分も耳にしたということで、理解をしていただきたいと思います。

また、公共事業など大きなプロジェクトについては、地域が受け入れる形にしてもらわないと、必ずあつれきが起きるといふようなことも踏まえた上で、その声を無視しているわけではございませんということで、ご理解していただきたいと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどのご答弁ですと、区長さんをやられたときの活性化協議会と、あと地域住民が、施設を受け入れるに当たって問題があるというような今、受け止め方をしたんですが、それは具体的にどの

ような声だったのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

まず、一番大きな声は、その施設の機能の部分と、もう一つは事業費に係る部分について、ご意見をお聞きしたということでもあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

その施設の機能の何が問題なのか。

あと、事業費の何が問題なのかを知りたいので教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

当時、私が耳にしていたという部分、また、情報を私自身が目にしたという部分でのお答えになるかと思いますが、事業費については約14億、それに加えて、プラスアルファ年間の運営費についてであります。それについて、市の財源措置、そして国からの交付金への戻しもある中での部分は、承知しております。

ただ、最終的に建設にかかる費用を投資した費用対効果についての疑問の声は聞いているということでございます。

さらにもう一つの観点から言えば、機能の部分であります。当初の要求水準書等を見ますと、やはりそこに入ってくる、私の最初の答弁でも言いましたように、産後ケア、そして重度心身障害児、そして、その保護者に関わる部分の関連している部分が不足しているのと、商業施設が入っていない中で人流を見込めるのかどうかという疑問もございました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどのまず、どうでしょうかね、じゃ14億プラスアルファ、年間5,000万掛ける10年の費用のところからいったほうがいいのかな。今回この計画がすごく進められた根本的な理由の中に、やっぱり国の財源が有利であるということが非常に大きかったかなと思っております。今回、金額的には12億4,200万だったかな、建設費のほうで。全体であるんですけども、ちょっと今回それで、これを中止にするという話から、そんなに国からの補助が難しいものなのかな

というのを自分なりに考えてみまして、すいません、ちょっと口頭なので、またメモを取りながらちょっと聞いていただきたいと思うんですけども。現行の基本計画、子育て支援複合施設の基本計画をベースにちょっとお話させていただきませんが、建設費と運営費で、運営費10年間分ですから17億4,200万円、建設費と運営費の総トータルが17億4,200万円として、市の負担額が18.5%として2億7,380万円という数字が、基本計画の中に示されております。旧井上商会の土地代で約1億円。それを市の負担額で18.5%を掛けると1,850万円。旧東北電力ビルの解体費で、今のところ9,800万ということなので、これに市の負担額18.5%を掛けると1,813万円。さらに今回、旧宮田ビルの解体費が入ってきましたので、1億5,200万円に対して市の負担額として18.5%で計算させていただきますと、2,812万円と。これらを合計すると3億3,855万円になります。つまりDBO方式の基本計画でいけば、3億3,855万円で12億4,200万円の施設ができる。

ただ、さっき市長がおっしゃったとおり、年間5,000万の運営費というのが拠出しなきゃいけないんですけども。ただ、逆に見ると、年間5,000万円の10年間分も込みにした形での今回の国の補助というふうにも見れるので、かなり有利というふうに見ております。

今回、ちょっと私、気になってたのが、今回、市長の建設中止の場合、建設中止の場合で、国の補助金が見えるパターンと、また使えないパターンがあるのかなと思っておりまして、もし、建物じゃなくて公園などの広場で整備して、国の補助金が見えたとしても、当初のにぎわいの拠点ではないため、建設費がやっぱり少額になっていくのではないかと。土地代やビルの解体費にどれだけの補助が受けられるかちょっと見通せない状況。

また、今度、補助金が見えないパターンです。これが一番心配してるんですが、旧井上商会の土地代1億円と、あと旧東北電力ビル並びに旧宮田ビルの2件分の解体費で、今2億5,000万円。合計すると3億5,000万円が、下手をすれば一般財源で全部賄う結果になるんじゃないかなという懸念がございます。

こういった、ただの更地の土地に3億5,000万をかけてしまう結果になるのをちょっと心配してまして、だったらそのリスクを考えたときには、現行の計画のまま進めたほうが、同じ3億5,000万弱のもので箱物ができて、にぎわいの拠点となり得る可能性のある施設になりますから、そういったほうが単純にいいのかなと思うんですが、今回、それを中止にしたその理由が、私の中でちょっと理解に苦しんでまして、だったら何も解体しないでそのままにするとかというほうが分かりやすいんですけども。計画を中止して解体をするということは、そんだけ真水の水で市が負担しなきゃいけないお金のことも考えなきゃいけないので、その辺の考え方をちょっと、もう一度再検討する必要があると思うんですが、その辺の考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

今ほどの保坂議員のおっしゃられることについては、私どももきちっと把握した中で、事務方のほうと検討をして、今進めております。基本的には、保坂議員が言われるリスクの排除をするということの見直しということで、進めております。現時点でのDBO形式での建設については中止と

いうことでもありますので、そこの部分の仕切りについては、見直しという部分の部分で捉えていただくようにしていただいて、今後の当行政側でこれからつくっていく整備計画について、またその部分については、ご理解をしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

理解していただきたいというご答弁だったんですが、そういうことではなくてですね、現行の計画でいくと、糸魚川市の負担額に対して大きな箱物ができて、そこでいろんなサービス展開ができるわけですよ。それで、今のを中止にして、その国の補助金がもらえたとしても、今のままだと多分、公園みたいなものをイメージはしてるんですが、それが当初の、当初の復興計画のにぎわいづくりの描いてきたものとは、多分かけ離れたものだと思うんですね。それでよしとする理由がまず分からないのと。

あと、もし国の補助金が当初の計画と違うねと言われたときに、国は払えないよと言われた場合に、その解体費であるとか、井上商会のその土地の買取り分だとかというのが3億5,000万円を市が今度負担する形になるんですよ。そうなったときのリスクを考えると、中止にするともう結論、市長出されてますけども、すごく私は性急な感じがして、そこを心配しておるんですよ。もう担保取れてね、国の補助がもう確実に頂けるんだと。市が身銭を切らなくても大丈夫なんだということが分かれば、またそれは違う検討の方法があるんですけども。今のままだと非常に何か危惧のほうが大きくて、それをやっぱり払拭していただかないと、ただ更地だけ頂いてもみたいな話になって。

議員の中には、やっぱり財政が厳しいから、箱物を単純に建てるということには皆さん慎重な方も大勢おられますし、今回の計画は6年がかりで積み上げてきたものをパーンと中止と言われても、なかなかすんと理解しにくいわけですよ。であるならば、その市民にとって利益があるというか、市民にとって有効な手だてというところをきちんと説明していかないと、私はちょっと今のままだと物足りないというか、という感じがしますんで、その辺の見解をお聞かせいただきたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

保坂議員のみならず、議員の皆様、また市民の皆様については、危惧されてる部分はあると思います。

ただ、私自身が、今回見直しという部分に至った経緯については、前段申しましたとおり、やっぱり地域が受け入れる形にさせていただかないとあつれきが生じるという点、そこの部分がまず1つと。

もう一つは、親子が利用する。町なかを流動していくという、いわゆるにぎわいづくりに資する意味で、どういうふうな機能があればいいのか、また、点在しながら流動性を持たせたほうがいいのかという検討も含んでおります。それについての再整備計画については、今、順次進めているところでございます。それをもって、国のほうに見直しという部分で提案をさせていただいて、ぜひリスクに係る部分については回避するという強い信念を持っていきたいと思っております。

また、建設に関わる業者、そして市民の皆さん、そして運営をする方が、三方よしの施設機能であるということが重要だと思っております。

また、当面の遊び場については、既存の場所、施設について、早急に整えるということで、まず、そういうことによって利用者が、またどういうふうな屋内遊戯施設が必要なのか、そして町なかを流動するにはどういうふうな思いを持っているのかという部分を、意見を含めた進展をこれから構築していくということを考えておりますので、決して、今のにぎわいづくりを全く否定しているわけでもございませんし、子育て支援について全く必要ない、屋外遊戯施設は必要であるという観点に立って再考していくということを申し伝えたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今ほどの議長の答弁からすると、その地域住民の受入れ、久保田市長の今のご答弁の話を聞きますと、地域に受け入れられる、ジャプランであるだとか、市長の言葉を借りれば、バックキャストイングということで、10年後、20年後のゴールを逆算した形ということになれば、今現在、その対案が示されていけば、まだ理解ができるのかなと思うんですけども、対案がないまま中止というふうに言われますと、どんなものができるのかということがやっぱり見えませんし。地域住民の声も十分分かるんですが、先ほどもデータというか取組の中で、親子世代からのニーズは高い屋内遊戯施設があるということで認識はあるんですけども、やっぱりその施設の特徴であるだとか、誰に使ってもらうものだとかという部分もやっぱりよく考えなきゃいけないので、少なくとも、さっきちょっと問題に上げてた施設の機能について問題点があるのであれば、こういったところを改善するであったとか、何かそういうものも言っていたかかないと、多分、議論が深まらないと思うんですね。それに早急にやる、早急にやると言われても、今回、国の財源のあの期限もございまして、かなり早急に対応していかなくちゃいけない内容かと思ってるんで、その辺どのように今後進めていくのか。どの時点で私たちにそれが、プランというか、示されるのか、その辺の考えを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

国のほうに再提案をする際に必要な計画案については、今、作成を急いでおります。また、その

作成を急いでいる中において、今お示しできるという部分については、ちょっとまだ時期尚早という表現が適当かどうか分かりませんが、まず先にきちっとそれを固めながら、そして固め上げる際に、もう一度、議会のほうに、また市民の皆様様に提案をしていくという手順を踏めればと思っております。

いわゆる既存施設を使うということについては、さらにもう一度市民の声、また利用者の声を深めていくという部分では必要なステップだと思っておりますので、そこについては、こちらのほうの計画を平行していくという観点でご理解をいただければと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

これからということで、その何ていうかな、検討しづらい内容でございます。今、市長の言葉で言うと、(2)のほうにちょっと移りますけども、既存施設の利用といいますけれども、今も言葉を使われてるんですが、これが駅北エリア内のことを言っているのか、駅北エリア外のことを言っているのかが本当に分からないので、それは今の段階で確定できることなんですか、それとも、そうではないんですか。その辺も含めて教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

結論から申し上げますと、駅北内・外で候補地を検討しております。それによって、内に造るケースと外に造るケースにおいて、その利用者の声が、また違ってくると思いますし、また、駐車場の問題だとかいろんな部分を勘案しながら、その候補地については、今当たっているということをお伝えさせていただきたいと思っております。

どこにという部分についての限定した部分については、今控えたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

そうしますと、②番のほうに市長が言われた、本当に駅北がふさわしいのかという部分に係ってくるのかなと思うんですけども、市長とすれば、基本的には駅北外のほうが理想かなと考えてるとい、市長としてはそういう受け止め方でよろしいんでしょうかね、こういう投げかけをしてるといことは。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

先ほど機能という部分でございませうけれども、やはり私も先般、子育てをしている方々と中央公民館、糸魚川公民館ですかね、そこに行かせていただきました、直近では。それ以前でも、糸魚川病院における産後ケアの問題、そして、ラ・マドレさんにもお話を伺ってきました。それぞれ子育てに関する、また、遊びに関する利用者のニーズというのは、単独で遊びたいとか少人数で遊びたい。また大きなところで遊びたいというニーズがある中で、1か所に絞ってしまうと、それが非常にごちゃ混ぜになってしまうという懸念があります。なので、そのニーズに応じた中の適地というものをもまず点在させていくということ、そしてさらに、その点在させていく中で、新たな考え方ができた場合には、別建ての事業も含めて検討すべきではないかという部分は、いわゆる行政サイドのほうには、私自身の思いとしては伝えてあります。

ただ、その行政サイドとして、そういう部分の事業立てをするという部分については、またそれぞれの、行政としての進行の仕方がございませうので、私の思いだけ一方的に伝えるということは、避けながら進めていかなければいけないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

私、今回いろいろ市長の考えを理解しようとは思いますが、どうしてもこれまでの6年間のいろんな会議の流れを見てきてね、まずは、駅北大火の後の復興ということで、そのにぎわいの拠点というところからスタートして、その後、地域住民でいろんな商業施設の声も出ました。銭湯がいいとかコンビニがいいとかスーパーみたいなものが欲しいとか。けども、どの会議があってもいろんな意見は出るんですが、それをどなたかがリーダーシップを取られて、一つにまとめてショッピングモールみたいにして、みんなテナントで入るようにしようとか、いやいや道の駅みたいにしてやろうとかという話にはならなかったんですね。最終的に意見は聞いたんですけども、そういったまとまりがなかったがゆえに、市としては、それでも何かそのにぎわいの拠点づくりということで、長年、懸案事項であった屋内遊戯施設というものを提案したらどうかと言って、出てきて、子育て支援センターのこともよく出てくるんですが、あくまでもやまのい保育園で手狭になっているのはめだか園のほうであって、そのめだか園の部分の子育て支援センターで、そのスペースを使うということで子育て支援センターを、じゃ屋内遊戯施設につけるよというのが、本来の流れだったんですよ。それが、何か知らんけど、途中から子育て支援センターがバーンと前に出ちゃって、子育ての施設みたいなイメージが湧いてるんですけども、本来は、屋内遊戯施設に市内の人も市外の人も多く使っていただいて、駅北に人流ですよ、人の流れを入れて、あと、民間レベルで来ていただいたお客様に何か食べてもらったり遊んでもらったり、購入してもらったり、またはコミュニティの場にしてもらったりというようなのが、分散型施設として、民間主導でやっていただきたかったイメージなんですよ。

それが、すごく子育て支援センターにすごく偏ったため、久保田市長の公式サイトの中にも子育て支援センターの利用者数をばあっと書いてあって、1万人で何か割り返して、1日5,000円、1人の利用が5,000円とか1万円とかって書き方されてあったんですけど、本来はそうではな

くって屋内遊戯施設の利用者というところで、ただ、過去に、平成22年のときに中央保育園の遊戯施設を開放してもらって、わんぱくホリデーというのを糸魚川市、過去にやっとなんですね。最初それなりに入ってきて利用者も多かったんですが、やっぱりそこにスタッフがなくて、子育てを相談できるスタッフだとか遊びをレクチャーしてくれるスタッフとかなくて、ちょっとマンネリ化してしまって、少し衰退したという、そういう過去の結果というかデータもあるんですね。だから、いかにそこにマンパワーというか、その施設を守っていく人、また、その施設を楽しませていくような人ってすごく大事になってくるんですね。そういった意味で、今回の運営費の5,000万という中に、一応、市としては10人ぐらいで1人350万ぐらいで計算してるみたいですけど、本来は、にぎやかにするためのマンパワーの人を囲っていきなさいいけないというところで、それなりの金額が、私、たたき出してあるんだらうという認識でいたんですね。

そういったものを今回、話を聞いてると、まず、駅北なのか駅北エリア外なのかとか、子育てに、一貫した子育ての施設みたいなものをバーンと打ち出してるんですけど、事の起こりは、やっぱりにぎわい、駅北のにぎわいを呼び戻すというところから来てるので、ちょっとその辺も何か違う方向に行ってるようなイメージが私には受け止められてるんです。だから、あくまでも駅北復興計画の中の流れというものを考えていくのか、そうじゃなくって、糸魚川市のもう全体の、何ていうか市民サービスについて計画立てるのであれば、それこそ立地から何から全部やればいい話なんですね、計画自体を。でも、今回は駅北という、もう立地がもう限定された中でのスタートなんで、それをいろんなことを混ぜこぜにしたがために、何かその市民の声という形で言われるんですが、それをもうちょっと、これまでの経過というのをどの程度整理されて、今回の中止というのを出してきたのかちょっと分からないんで、その辺、もし整理できたら教えていただきたいんですね。お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

保坂議員の思いの丈については、私自身も重々理解しております。にぎわいのまちづくりと子育て支援複合施設について、別に考えるとかごちゃごちゃになってるということじゃなくて、卵が先か鶏が先かという問題にも似たような感じなんですけども、今その建物を建てる際にも時間と労力が必要になってきますよね。でも今必要なのは、実際、利用者が今そこにいるという現実を見て、その人たちが、まず、屋内で遊戯できるような、しっかりとした施設じゃないにしても、そういう部分をきちんと整えて、そして、その中で運営をしていくという体制づくりもこれから考えなきゃいけないと思うんです。今、オペレーションの部分で年間5,000万かける云々というよりも、現時点で今、オペレーションに携われる人たちが、現在、糸魚川市にいるという実態も含めて、そういう人たちの手を借りながら、一旦オペレーションしていきたい、運営をしていきたい。そして、その中において、その特性に合わせた子供たちのニーズ、特性に合わせた部分でオペレーションする人たちをそこに配置していったら、まず試行的に、子供の遊び場、健全な育成について考える時間を整備計画と同時に進めるために、そういう部分の既存施設の利用をしたいという部分が思いです。

既存施設については、当然その中に機能的な充実を図る意味では、別建ての事業に持っていくことも考えなければいけない。今回の整備計画以外のところでも考えなきゃいけない。でもそれは、真剣になって考えて、国・県へのやっぱり要望、また申請をするということに、やっぱり大きな労力を割くという覚悟を持たなきゃいけないと思うんです。それが、さっきで言うバックキャストで言うと10年後、建てて、そういうものがあってよかったというものにつながってくると思うんです。

この後のいろんな方々の答弁にも出てきますけれども、やはりにぎわいという部分、ということは、多くの人たちがそこを利用して、流動をしていくということを考えてときに、やっぱりその中に、例えばです、クリニックを入れるとかということもしなきゃいけない。じゃ、クリニックを入れるのであれば、そこにドクターを何とかしなきゃいけない。今の現状でいくと、なかなかそういう部分も難しい。でもそういう交渉をしていくということも、これから英断を持ってやんなきゃいけないと思うんですね。

でも、何もそういうことを計画しないで交渉はできないという部分も、私自身が持っている中で、今回、見直しという部分に際して、そういうことも付随して取り組んでいきたい。また、10年後の糸魚川市民にとって必要なものが、順次造れるものであれば、そういうところに持っていきたい。取りあえず、あその部分を解体し、そして、次なる整備計画をお示しする中で理解を深めていきたいという部分が、私自身の思いなんです。

だから、行政サイドとしては、市長、それは難しいですよ、大変ですよ。でも、できない理由を言ってしまえば、ものは進まないと思うんです。何とかしようという思いがあって、議員の皆さんと共にそういうことを考えて、こういう案でいったらどうだということをいろんな意見を聞かせていただいた中で、国・県への要望、そして、市民の理解を得たいという部分の思いで、今進めていきたいというふうに感じておりますので、ぜひその辺のところもしんしゃくしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

今のお話を聞いてますと、根本的にその計画を、別のものを計画を立てるというふうを受け止めたんですね、クリニックを入れるであるだとか。ちょっと困ったなと思ったのは、今、市長のお話を聞いてると、市長、駅北にクリニックが必要だとか、商業施設が必要だという、もしプランを考えているのであれば、当初の駅北復興計画とかまちづくり戦略って邪魔になりますよ、もしそういう考え方を持っているのであれば。だから、そういったところも市民説明しなきゃいけなくなってしまうし、全く新しい計画を立てたいんだというほうが、聞いている側としてはすごくすっきりはします。

けども、今懸念してるのは、財源が、子育て機能ありきの駅北復興計画、立地適正化計画もあって、居住誘導といういろんな条件が整ってるから、この有利な財源が執行できるという状況にあるわけですよ。別に駅北にこだわらなければ、クリニックであるだとか商業施設の新しいプランは、

またそれが道の駅なのか何だか、私、分らないですけども、どっかの業者とタイアップして、ミニショッピングモールみたいなものを誘致するとかというの也被えられると思うんですけどね。だけ、そこをもうちょっと整理して言っていないと、今回の、厄介なところて言うと、財源ありきで物を考てていること、駅北大火の復興から始まっているところて、皆さんの思いと与えられる条件が、うまくかみ合ってこなかった元凶なんですよ。だけ、その中で6年間かけて突き詰めて、何かお互いに調和をして出てきたのが今の基本計画になっるとるんで、その背景と大意を考てた上で、やっぱりもうちょっと再検討する必要があると思うんですけどね。

市長が言っている、そのクリニックであるとか商業施設を別に否定はしません。むしろそれがにぎわいになったり、糸魚川の経済活動の機運を持たせる施設であれば、全然それは進めていただきたいと思ひますし、またそこに有利な財源があるのか、それとももっと違ういろんなスポンサーになる方がおられて、それに協力してそういった話が出てくれば、またそれはそれで検討していけばいいと思うんですけど。今この財源と今回の計画は、もう根本のところからちょっと違った方向に行っているんじゃないかなという懸念があるもんですから、その辺は、いま一度確認・整理されたほうがいいのかなと思うので、そこは、そういう検討する余裕はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご意見は、非常に私自身も理解できる部分もあります。

ただ、先ほど保坂議員もお使いになった言葉でバックキャストिंगということがあって、過去6年間通してやってきたということが、その次のバックキャストिंग、いわゆる先ほど保坂議員も言うように、まちのにぎわいという部分の観点からいうと、そういうものも必要ですよ。でもその過去6年間の事業計画の中で、そういうものが入っていない計画で、今の建設であるのであれば見直してくださいと。私がいうバックキャストिंगについては、そういう機能がある施設であれば、この建設計画をそのままスタートして、みんなで押していこうという思ひもあります。

ただ、そういう部分が、やっぱり10年後を見据えた中にないのであれば、一旦見直した上で、この整備計画をもう一度考えませんかということになっているということなんです。全てを否定しているというわけではないという部分から、もう一度、整備計画を見直すという表現でしかお伝えできないのかなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

もう一つ、保坂議員が懸念しています、これから国へ再度提案する際の財源については、こちらのほう、行政サイドでも検討しながら、そういう懸念材料に行かないような部分での対応を順次、今検討しながら進めておりますので、その辺のところも一応ご理解していただければと思ひます。

○議長（古畑浩一君）

一般質問の途中でありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午前11時59分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

それでは、午前中に引き続き、一般質問を行います。

保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

それでは、質問の大きい1番の（2）の④のところで、駅北におけるにぎわいづくりの対案はあるのかということで、ちょっと私、聞き漏らしたかもしれませんので、少しその対案めいたものがあれば、ちょっとご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

にぎわいづくりについては、現在までに進行しているプラン、いわゆる実行しているものも含めて、これからそれを先に延ばしていくということは考えております。

ただもう一つ、にぎわいづくりにおいて言うならば、やっぱり町なかに人を誘導してくるという部分において言えば、やっぱり新幹線駅の利用から含めて、ロの字の活用、今単発的なイベント等で活用しておりますが、非常に多くの方がにぎわっています。それが単発的に終わらずに、少しずつそれがある一定期間だとかいうものを含めていく。にぎわいづくりにおいて言えば、そういう人が、いわゆる多くの方が集える場所の確保も必要になってくる。それと駐車場の確保も必要になってくる。それと、大火からの復興というシンボルなんかも何かあればいいなというふうに考えておりますけども、にぎわいについては、後ほどまたお話しさせていただくこともありますけども、基本的に旧糸魚川の町なかというのは宿場町というふうに言われていますので、そういう機能を少しずつ加えていくということも必要なものなのかなと思っております。今頑張っている事業者の方々が、さらに頑張れるようににぎわいを、いわゆるボリュームアップしていけばと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

私も駅北、今回建設中止って話もあるんですが、そういうことではなくて、やっぱり駅北全体のにぎわいづくりということで、私も今回、今中止になって公園になるのか、また箱物ができるのかちょっと分からないんですが、やっぱり能登半島地震のこともあって、垂直避難という部分も何か見据えた箱物ができればいいなとは思っている一人なんですけども。

そういう部分も含めながら今後、もしこののにぎわいづくりというところで自分なりにもちょっと考えたのが、町なかジップラインとか、子供たちが町なかをジップラインで少し移動して遊べるであるとか。

あと、はだしでよく歩ける、前もどっかで言ったと思うんですけど、やっぱり噴水みたいな広場、下から水が出て、そこで子供たちが遊べるような広場。あと、場合によっては冬になれば、屋内でなければそりができるような、あえてそういう形状のものにして、少ない雪でもそりができるようにしてあげるとか。

あと、本町通りそのままを、皆さんご存じですかね、ティラノザウルスの着ぐるみみたいなものを着てレースをするというのがあるんですけども、ああいったものを、もう本町通り、もうそのときは歩行者天国みたいにして、トラックみたいなコースにして、定期的に大会をするとか。

あと、無電柱化なんで、ちょっと可能かどうか分かんないですけど、今の子供、たこ揚げとかしないと思うんで、あえて無電柱化になった町なかで、ミニゲイラカイトじゃありませんけどもそういうのを揚げてみたりするとか、そういうにぎわいのソフトメニューも、ここはちょっと考えていってもらいたいなど。

あと、以前から言ってる、私、こども消防隊すごく好きなもんですから、できればあそこにミニ本部みたいなものをつくって、レスキューもどきのアスレチックで体を鍛えてもらうコーナーであるとか。

あと、先ほどもちょっと市長にもお話ししたんですけど、チームラボさんが金沢市で行った、城壁の白壁とかに投影して、動物の甲冑着たりとか着物を着たりした格好で、参勤交代みたいに歩くシーンを投影してるのがあるんですね。本町通りで雁木が売りだというのであれば、そういったチームラボさんとコラボして、かわいい動物とか、また、かわいくなくてもいいんですけども、ちょっと面白いようなキャラクターのものを歩かせてみて、ショータイムですよ、そういったものをして、人を導入するであるとか。ちょっとそういうことも考えていっていいんじゃないかなと思います。

それから、もし可能であれば、以前、一般質問でも言ったことがあるんですが、公園もいいんですけど、やっぱり屋根があって、多少空調の効く空間があれば、子供たちの実験室みたいな遊び場というか、紙飛行機飛ばすでもいいでしょうし、何か石を割ったりするのでもいいでしょう。そういう空間が安全にできる場所、当然デジタルのところもあって、何ていうかな、そういう今言った書いた絵が、この空間の中を動き回るようなものができるものであるとか、そういったものもぜひ検討に加えていただきたいと思うんですが、やっぱりそれは子育て機能に入らないのかもしれませんが、もしそういったところも含めて、今後、検討していただきたいと思うんですが、そういう考え方というのはできるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今、ただいま計画しておるところにつきましては、国の計画上では子育て支援に資するものといったところの目的を持っております。そちらの部分については、今後も継続していくものと考えておりますので、今ほど保坂議員からご提案のあった部分についても、子育て支援に資する部分というところでは、取り入れていける部分があるかとは思っておりますので、参考とさせていただければというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○17番（保坂 悟君）

次に、（3）番の屋内遊戯施設の認識について。基本的には、市長におかれましても屋内遊戯施設の必要性というものは理解されていると思います。特に近県の山形県、富山県、石川県でも多くの自治体で大小様々な屋内遊戯施設が整備されておりますし、福井県にいたっては、施設整備の計画を出した時点で、自治体に上限1億円の補助金を出すという、それぐらい積極的にやっているとところもございます。ぜひどんな形であれ、私は屋内遊戯施設は必要だと思いますので、駅北内、駅北外ありますけども、やっぱり人を呼び込める屋内遊戯施設というものをぜひ検討していただきたいと思います。

それで、ちょっと参考事例として、静岡県の浜松市に車のメーカーで、スズキのメーカーで、スズキアリーナ森田というところで、L i M O L i M O もりたという名前で、ディーラーの車の並んでる、5台並ぶスペースのところの1台だけを置いて、4台全部取っ払って、子供の遊び場にしたディーラーさんがいるんですね。それで、無償で遊ばせるようにして2年間やったら、売上げが1.5倍になったという。これは何を意味するかというと、ただで遊ばせてもらって、1台しか展示車両はないんですよ。だけど、そこを何ていうのかな、フレンドリーに、セールスかけるわけじゃないんですって、絶対スタッフは声かけないんですって、向こうから聞かれたときに、初めてその車のよさとか遊び心であるとかを紹介して、何となくのセールスらしいんですね。それで、逆に1.5倍売上げが伸びたという事例がありまして。だから、屋内遊戯施設というか遊び場というか、そのコミュニティの場所として屋内遊戯施設という魅力は、経済活動にもつながるものなので、単なる保育園の遊戯場という認識ではなくて、その交流の場、またビジネスチャンスをつかむ場というところもぜひ見ていただきたいと思いますし、また、いろんな事例あるかと思しますので、人を呼び込める駅北、人を呼び込める糸魚川市になるように、あらゆる角度から研究をして、その中の一つの施設として屋内遊戯施設も検討していただきたいということを要望いたしました。私からの一般質問とさせていただきます。

今日は、ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

和泉議員。〔8番 和泉克彦君登壇〕

○8番（和泉克彦君）

幸福実現党の和泉克彦でございます。

市議2期目として最初の一般質問になりますが、初心に立ち戻り、さらなる研さんを重ね、誠心誠意、市議としての使命を全うしてまいりたい所存でございます。

糸魚川市民の皆様方が、この糸魚川に生まれ、住み、そしてこの時代に生まれてよかったと心の底から喜べるような真の幸福が実現できますように、心に寄り添い、市民の皆様のお声を市政に反映させていきたいと考えております。

それでは、発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、久保田市長が目指す「市民と共に未来を開く」まちづくりとそれに係る「縮充」について。

久保田市長は、「市民と共に未来を開く」まちづくりを目指すとされており、そして、市民の声に耳を傾け、共に考え、共に行動していく「市民参加型のまちづくり」を掲げておられます。これらと併せて「縮充」という考え方も示されておられます。

そこで、以下、伺います。

(1) 市長は、「市民の声に耳を傾け、共に考え、共に行動していく」とのことですが、このような機会を設けるために、どのようなことを想定されているのか、伺います。

(2) 市長は、これからの社会には、「縮充」という考え方が必要であるとのことですが、市長の言葉としては、「縮小」する現実を悲観せず、縮小する中で「充実」を大切にするというお考えですが、市長が、現時点でお考えになる「縮充」とは、具体的にはどのようなものなのか、伺います。

(3) 市長は、糸魚川の持つ豊かな自然、歴史、文化、ここに暮らす全ての方の力を生かしたまちづくりをお考えですが、糸魚川地域、能生地域、青海地域、それぞれの地域の特出すべき具体的なものを上げるとすればどのようなもののでしょうか、伺います。

2、マイナ保険証に係る現状と課題について。

紙の健康保険証の新規発行停止から半年がたちました。デジタル化の流れの中で主流となるはずのマイナ保険証の利用率の低迷や医療機関での何らかのトラブルが報道されています。そのような状況で、マイナ保険証を持っていない方への資格確認書の発送交付が来月末までに完了し、本人の手元に万が一届かなければ、マイナンバーカードの有効期限切れの問題と合わせて、マイナ保険証に係る混乱を招くことになりかねないということが懸念されます。

そこで、以下、伺います。

(1) マイナンバーカード、それとひもづけになっているマイナ保険証のそれぞれの取得率と利用率について伺います。

(2) マイナ保険証に係るトラブルが全国的に起こり、そのことがマスコミなどから報道されて